

いました。

メデユカパスに入学してみても、私立医学部専門予備校の勉強法と情報量の違いに驚きました。

田村氏 当予備校での妃那子さんは、予習復習をしっかりと行い、確認テストで優秀な成績を取って、毎週掲示される成績優秀者に載ることを目標に頑張っていましたし、間違えた問題の再テストも手抜きせずにきちんと行っていました。

1年間は大変辛かったと思いますが、合格できたのは、目標をしっかりと定め、毎日真面目に努力し続けた結果だと思います。

私は頑張った努力は必ず報われると思っています。しっかりと目標を持って、コツコツ勉強する生徒さんの多くが医学部に合格しています。

田中氏 妃那子は元来が真面目な性格です。高校時代も自らのスケジュール管理で勉強に取り組んでいて、日曜日にも朝からきちんと塾に通ったりしていました。

大手予備校での受験勉強はそれなりに進んでいると思っていたのですが、時間をかけている割には勉強方法や点の取り方が学べていなかったのだと思います。メデユカパスでの1年間ではそういうところがしっかりと身につけられたと思います。

独自の学力向上システム。 インプット・アウトプット方式授業

田村氏 私どものカリキュラムでインプット・アウトプットという授業があります。

これは、自分が判らなかつた重要な問題を講師から教えて貰い理解（インプット）し、次にその内容を少人数のグループの中でメンバーに分かり易く説明（アウトプット）するという、脳が活性化する学力向上システムです。

人に教えるということは、相手に分かり易く説明しないと伝わりません。人に教えることを前提に学習しますので、学んだ内容を簡潔にまとめて脳にインプットする習慣がついていきます。

インプットした内容を誰もが納得するようにきちんとアウトプットできれば知識が定着している事の確認になります。

特に妃那子さんは、とても上手にこの授業をマスターされた生徒さんでした。妃那子さん 私は、勉強は好きでしたが、考えることが苦手でした。

この授業では、苦手な問題や十分に把握できていない問題の理解がとても深まりました。人に教えるということとは、とても効果的だと思います。

医学部に入ってから、人に教えると一人で勉強するよりも記憶の定着が深まることを実感しています。

田村氏 そのように言ってもらえることは私どもにとっても本当に嬉しいことです。

生徒さんは、最初の頃は不安なようですが、次第にこの授業が面白くなってくるようです。

中には時間を延長しても行いたいというグループも出てきます。

さらには妃那子さんのように、大学に入ってからこの授業の経験が役立っていると話される人が多くいます。

私どものカリキュラムが大学に入ってからでも活かしているということは、嬉しく誇りにも思います。

ただ覚えるのではなく、知識を活かすことで脳が活性化する。

妃那子さん 私にとっては初めて経験する授業なので、当初はとても緊張しました。

しかも教える相手の中には成績上位の人もあるので、最初の頃は予習をしっかりと行っていました。それでも後半になると、自信も付いてきて自分の考えを上手に話せるようになりました。

また受験が近づいてくると、皆で問題の解答を検討したりするようにもなり、他の人の考えや意見を聞き合い、グループ全員で解答を導き出すことで、いろいろな気付きがありました。私にとってはそれがとても勉強になりました。田村氏 実はそれが脳に刺激を与えるということなんです。

大切なことは単に覚えるということではなく、知識を活かすということなのです。

田中氏 そこが、一方的に教えてもらっているのとは大きく違うところだと思います。

妃那子は毎日の連絡の中で、他の人の考えや意見で気づいた事を、度々話してくれました。

一人で勉強している時には気づけなかった考え方や勉強の段取りを、友達から学べる事が多くあって、それが大きな刺激になっていたと思います。

単に仲が良い受験生仲間という関係では得られないことだと思えますし、実はすごく重要なことでもあったと思います。

最近では、医学部教育もインストラクショナルデザイン（教育設計）に則ってカリキュラムが組まれているのですが、そこでも生徒同士での教え合いやグループ学習の授業が増えているようです。



田村 和香氏
メデユカパス 校長 英語講師

東京女子大学文理学部英米文学科卒、元両国予備校講師
受験予備校の講師歴24年間のうち14年間に両国予備校の講師として、偏差値50前後で入学した受験生を、それぞれの志望大学に多数合格させてきた。受験生をより良き方向へと導くことを一生の仕事として、受験指導に情熱を注いでいる。